

シャクヤク [芍薬] *Paeonia lactiflora*

- 「立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花」、「牡丹は花王、芍薬は花相」といわれます。
- ボタンもシャクヤクも、**ボタン科ボタン属**の植物。「ボタン」は**木本性(樹木)**で、「シャクヤク」は**草本性(多年草)**で冬に地上部が枯れます。ボタン属33種のうち木本性は数種に限られ多くは草本です。
- 学名の *Paeonia* **ペオニア**は、ギリシャ神話の神々の**医師ペオニン**に因み、ボタンと同様、シャクヤクもまず**薬用として栽培**され、その後、鑑賞用の花として品種も発達してきました。
- ボタン属の中で最も重要な種は、**中国北部原産の*P. lactiflora* (白い花の意)**から発達した「ラクティフローラ系」です。11世紀には**3万種**もの品種が作出され、14世紀に日本へ入りました。
- 日本シャクヤクもラクティフローラ系統で、雄しべの変化により、**一重咲き、金しべ咲き、翁咲き、冠咲き、バラ咲き、半バラ咲き、半八重咲き**などがあり、色と形の変化が鑑賞できます。



●白色系(半八重咲き)

雄しべが周囲からだんだん弁化し、中央には完全な雄しべが残っている



●白色系(翁咲き)

花弁は一重か半八重のままだが、雄しべの一本一本がますます大きく扁平になって、普通の花弁の中央に少し細い花弁をもった別の花が咲いている



●赤紫色系(半バラ咲き)

花弁が外弁も内弁も完全に同じ形に連なって、まったく区別がつかなくなった形。雄しべは弁化してなくなっている



●淡桃色系(手摺咲き)

雄しべは完全に外弁と同形になっているが、それでもまだ内弁が玉のように立ち上がり、外弁との間に区別が見える



●白色系(冠咲き)

雄しべ、特に中央部の雄しべが完全に弁化し、外弁と変わらない形になる。ところが外回り雄しべには変化のないものが多く、外弁と内弁を区切っているように見える